



レンズを通して

連載「十月」

を

写真・文 高円宮妃久子殿下

シジュウカラガン 67cm カモ科

田畑に降り立つシジュウカラガン。以前は北アメリカに広く分布するカナダガンの亜種のひとつとされていた。今は別種と認められた。この写真では胸の色の濃さがよくわかる。

シジュウカラガン

——日本の空に再び

写真文 高円宮妃久子

秋から冬にかけて、日本の水辺にガンの仲間が渡ってきます。その編隊飛行の美しさや哀切の欲が深い鳴き交わし、満月の夜空に浮かぶシルエットなどは実に情緒のあるものです。日本人は北の国から、竿になり鍵になり渡ってきたガンの様子に心を打たれ、短歌や俳句に詠み、画題としてきました。当然、写真の被写体としても魅力的です。

ちょうど2年前の11月、宮城県大崎市にて、蕪栗沼のラムサール条約湿地指定10周年とシジュウカラガンの個体数1000羽達成、そして雁の里親友の会制度発足30周年を記念するシンポジウムが開催されました。祝うことの多い会でしたが、開催が近づいてきた9月11日、ガンの保護に協力してくださっている地元農家の皆さんが豪雨被害に遭われました。東日本大震災から4年半、平穏な日常を取り戻されつつある矢先の出来事で、ほとんどの世帯が浸水し、農地が冠水してしまいました。そのような中、「粘り強く我慢強い東北魂で困難に立ち向かい、渡り鳥の越冬地の水田を守り、鳥たちとの共存共生に努めたい」と宣言してくださったこと、とても有難く思っています。

蕪栗沼や化女沼とその周辺ではシジュウカラガンやヒシクイ、マガンなどの観察と撮影を行いました。今回は再び日本の空を飛ぶシジュウカラガンに焦点を当ててご紹介いたします。

かつては多数のシジュウカラガンが関東や東北地方で越冬していました。ところが各国で毛皮の需要が高まった20世紀初頭、養殖業者がアリューシャン列島と千島列島においてキツネの放し飼いを始めたのです。アメリカに渡る個体群はアリューシャン列島が繁殖地、日本に渡る個体群は千島列島が繁殖地であり、卵やヒナのみならず、換毛の時期には飛べない親鳥にとってもキツネは脅威となりました。養殖業者たちの行為によりシジュウカラガンは大きな被害を受け、一時期は絶滅したとも考えられていました。しかし1963年、嬉しいことにアリューシャン列島バルディール島で2000〜3000羽の生存が確認されたのです。アメリカ政府は直ちに保全活動を開始し2001年には絶滅から脱したと発表しました。

1983年、仙台の八木山動物園や日本雁を保護する会はアメリカ政府の協力を得て保護活動を開始。1992年、ロシアの科学者の参画を得て、日米露は千島列島においてシジュウカラガンを放鳥する計画を進めました。1995年からキツネのいない千島のエカルマ島に6年間で119羽、次の6年間でさらに346羽の飼育個体を放鳥し、そのうちの数羽が日本に渡ってくるようになりました。2005年以降は越冬のために渡来する数が急速に増加し、2014年には1000羽を超えたのです。

日本のシジュウカラガンは、彼らの保護を心から願う民間団体の皆さんの情熱、事業が良いと判断すれば民間団体にも協力するアメリカ政府の姿勢、そしてロシアの学者の知識と信念により、絶滅の崖っぷちから復帰。古来の渡りを再開しました。地元の方たちは、「よく戻ってきたね」と秋には歓迎し、餌場である田畑に入ることを辛抱強く見守り、「元気でまた帰ってくるんだよ」と春には見送ってくださいます。

頭脳の発達した一つの種として、人類は他の動植物とどのように共存するか決められる立場にすることが多くあります。数人の努力でも、同じ方向に力を結集して動けばそれが大きな波を作り、成果に繋がることを物語る貴重な事例であると思います。



シジュウカラガン

鳴き交わしながら飛び過ぎていく。英名Cackling Goose。「キヤクキヤク」と鳴く。2015年は前年の倍の2000羽を超えた「緩い」大きな群で行動。感動的であった。

シジュウカラガン

田んぼや大豆畑で採食するため、農家の理解と協力なしには越冬できない。収穫の時期など工夫した共存共生が長続きの秘訣。



カナダガン 110cm カモ科

亜種や個体差によって違うが、シジュウカラガンよりかなり大きい。胸の色が淡く、ネックレスがない。嘴が長く、面長に見える。低い声で、「ホーンク」と鳴く。



シジュウカラガン

別々に見るとサイズの違いがわからないが、並ぶとサイズの違いが顕著。胸の色が濃く、白いネックレスがある。嘴がより短く、「可愛い丸顔」に見える。



シジュウカラ

14.5cm シジュウカラ科

両頬の白い斑がシジュウカラと似ていることからシジュウカラガンの名前がついた。江戸時代の堀田正敦の『観文禽譜』に「頬に四十からの如き白文あり……」と書いてある。